

ハマキコン-Nを使った減農薬防除による クワシロカイガラムシの密度抑制

[研究のねらい]

- ・交信攪乱剤ハマキコン-Nを利用すればハマキムシの防除が省略でき、減農薬が可能となる。
- ・ハマキコン-Nを基幹とした減農薬防除体系を導入することにより、クワシロカイガラムシの天敵の活動を活発化させ、土着天敵がクワシロカイガラムシの密度を抑制することを実証する。

[研究の成果]

- ・ハマキコン-Nを設置した減農薬区では、クワシロカイガラムシに対する寄生蜂の寄生率が、世代を経るごとに徐々に上昇しはじめ、最高で寄生率80%以上に達した(図1)。
- ・一方、慣行防除区では、寄生率の上昇は認められなかった(図1)。
- ・クワシロカイガラムシの密度は、減農薬区の方が慣行防除区より低く推移した(図2)。
- ・減農薬区の殺虫剤の散布回数は、慣行防除区の約2/3~3/4に低減された。
- ・以上より、減農薬区では土着天敵が保護され、その活動が活発化したことによりクワシロカイガラムシの密度が抑制されたことが実証された。

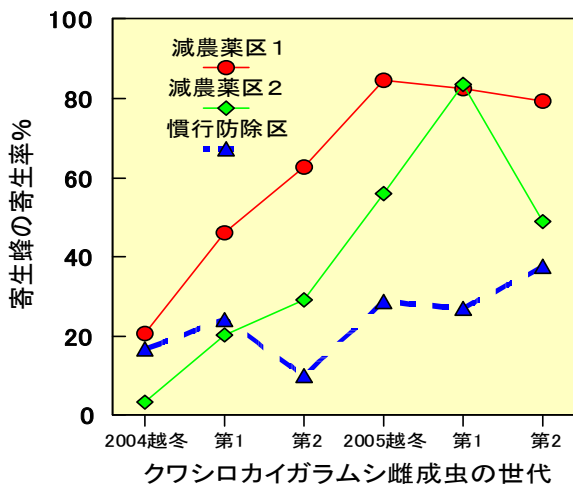


図1 天敵寄生蜂の寄生率の推移

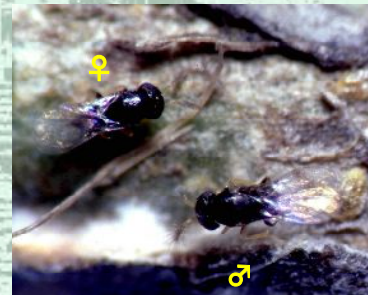


写真1
クワシロカイガラムシの天敵
寄生蜂チビト
ビコバチ

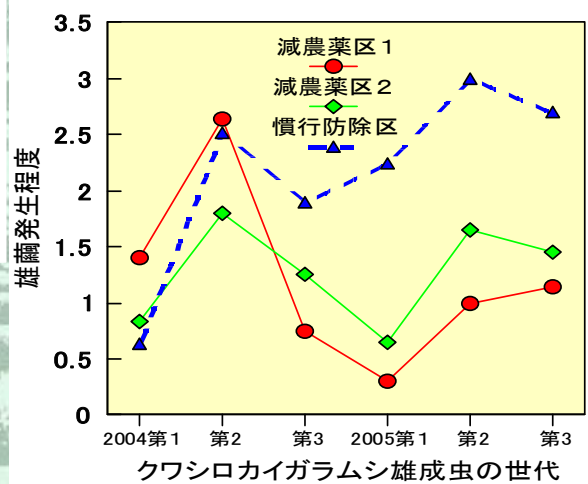


図2 クワシロカイガラムシの密度推移



写真2
ハマキムシの
交信攪乱剤フェ
ロモン剤「ハマ
キコン-N」